

- 「R16 ～国道16号線スタジオ」がスタート
- ヨコハマ創造都市を巡るリレーレクチャー & ヨコハマ創造界隈アーティストトーク
- バンカートスクール10-12月期受講生募集!
- BankART 妻有「桐山の家」2018
- BankART Home オープン!

BankART NEWS Vol.13

発行: BankART1929
2018年10月10日発行

Creative Network事業

「R16 ～国道16号線スタジオ」がスタート!



Creative Network事業「R16 ～国道16号線スタジオ」が8.17にスタートし、夕刻6時から入居アーティストのウェルカムパーティを開催した。メールニュースだけの配信告知だったが、200人も人が訪れてくれ、廃墟と化していた横浜の心臓部が、15年ぶりに活況をみせた。R16スタジオは、最近の高架下の店舗のようにお洒落にインテリアを壁で覆った空間とは異なり、床と低い壁を施しただけの外のような空間。訪れてくれた人の感想は、「外じゃないか」、「雨風しのげるの?」とか、「トイレは?」等、予想通りの反応で、こんな場所でアートができるのだろうか、とみんな目をぱちくりさせていた。入居する側の作家も同様で、どう使っていくのか、とまどっているというのが正直なところだ。どうしてこのような造りにしたかの理由はここでは述べないが、2ヶ月～3ヶ月ぐらい経てどのように変化していくのかを、にやにやしながら、見守っていただければと思う。

【R16 ～国道16号線スタジオ】
旧市街地と新市街地（みなとみらい）を分つ、東急東横線（横浜駅～桜木町駅）の廃線跡。上部は、かつて線路だった場所を2021年度までに遊歩道へ変換させる計画となっている。今回の試みは、こうした状況の中、現在眠っている高架下を活用し、期間限定のスタジオ・アトリエを挿入するプロジェクトである。位置は高島町の交差点（二代目横浜駅があった場所）から桜木町方面に続く16ブロック約100mのゾーン。原則として制作場所としての活用だが、適時オープンスタジオ、ワークショップ等の期間を設けて、市民に対しても開いていく。

アクセス:R16 (横浜西区桜木町7-48)
横浜駅より徒歩12分、みなとみらい線「新高島駅」より徒歩5分、市営地下鉄「高島町駅」2番出口より徒歩5分
高島町駅、横浜駅から、迂回する陸橋をご使用ください。またバス停「花咲橋」からも歩けます。
*国道16号線の横断歩道のない場所を横切るのは、絶対に止めてください。

次回イベント予告 R16 オープンスタジオ

Opening Party: 11/16fri 18:30～(Open Studioは17時から)
Open Studio: 11/17sat～18sun 11:00～18:00
スタジオアーティスト:金子未弥、シェアスタジオ Sha-Ba (写場) (秋山直子、北山深雪、古賀通代、hondachihiro、菅原康太)、363table、マツダホーム、土屋信子、渡辺 篤、nitehi works / 堀崎剛志、owowbund1871 (オウオウバンド)



Creative Network事業

ヨコハマ創造都市を巡るリレーレクチャー & ヨコハマ創造界隈アーティストトーク

ほぼ前期事業が順調に推移、終了し、後期開催プログラムを現在案内中。引き続きよろしくお祈りします。

横浜市が創造都市構想を打ち出したのが2003年。2004年に誕生したBankART1929を筆頭に街なかに様々な文化活動拠点がこれまでに誕生してきた。こうした公的予算が導入されている施設を中心にヨコハマ創造界隈は徐々に形成されてきたが、現在では民間のプログラムも増えて1,000名を超えるクリエイターが活動するゾーンへと成長してきている。このプログラムでは、急な坂スタジオ、初黄・日ノ出町地区（黄金町エリア）、象の鼻テラス、YCC、THEBAYS等の主要拠点の他、この地域において重要な役割を担い活発に活動している団体、チーム、シェアスタジオ等、また創造都市のフレームの構築を担った組織や行政の方にもお話を伺う。「巡る」とあるように開催場所はその都度変わり、原則各拠点の施設を順繰りに巡ることになる。

ヨコハマ創造都市を巡るリレーレクチャー

2018年5月～2019年2月 金曜の夜 (例外あり)
19:30～21:00 参加費:各回1,000円
(5回パス券3,000円・10回パス券5,000円)

今後の予定

- 10/26 @シルクセンター | 神部 浩 (横浜市文化観光局長)
- 11/9 @Lプラザ | 岡部友彦 (コトラボ合同会社代表) + 河本一満 (横浜市/寿オールドシティ・ネットワーク)
- 11/16 @ THE BAYS | 木村洋太 (株式会社横浜DeNAベイスターズ・THE BAYS 執行役員事業本部本部長)
- 12/7 @シルクセンター | 恵良隆二 (横浜市芸術文化振興財団専務理事) + 杉崎栄介 (アーツコミッション・ヨコハマ)
- 1/11 (会場は調整中) | 近澤弘明 (株式会社近沢レース店代表取締役社長) + 横濱まちづくり倶楽部メンバー
- 1/25 @ BUKATSUDO | 川島史 (リビタ/BUKATSUDO マネージャー)
- 2/1 @ 若葉町ウォーフ | 佐藤 信 (若葉町ウォーフ代表/劇作家、演出家)
- 2/22 @ 関内フューチャーセンター | 治田友香 (関内イノベーションイニシアティブ株式会社代表取締役)
- 3/1 (会場は調整中) | 工藤裕二 (横浜市文化観光局文化芸術創造都市推進部課長)



ヨコハマ創造界隈アーティストトーク

2018年5月～2019年2月 土曜 (例外あり) 19:00～20:30 会場:BankART Home
参加費:無料 (ワンドリンクのオーダーをお願いします)

ヨコハマ創造都市を形成してきたクリエイターによるアーティストトークのシリーズ。

今後の予定 9/22 川本尚毅、9/29 西田司、10/6 川口ひろ子、10/13 飯田善彦、10/20 丸山欣也+浅沼秀治、10/27 櫻井淳・悦子・心平、11/10 曾谷朝絵、11/17 柳澤潤、11/24 似て非 works、12/1 杉浦裕樹、12/8 伊藤有希、12/15 金木伸浩 他、12/22 浅野宏治+茂木隆宏、1/12 八幡温子、1/19 梶原俊幸、1/26 森日出夫、2/2 両見英世、2/9 中川憲造、2/16 のげやまくん、2/23 北風総貴、3/2 宮 晶子

Creative Networkとは?これまでの横浜市における約13年間の創造都市施策のあゆみを、レクチャー、アーティストトーク、スタジオワーク等のプログラムを開催を通して、この一年間、検証していくプログラムです。こうした活動と情報発信を通して、各創造界隈拠点の繋がりを深め、その活動を広く市民に周知し、次世代につながる都心臨海部の賑わいづくり、活性化を目的とします。

バンカースクール 2018年10-12月期受講生募集!

BankART school 2018年10月～12月期の受講生の募集がはじまりました。是非みなさんご参加ください。

10-12月 詳細は別刷りチラシ・HPにて

火 | 「政治とアート」南雲由子+伊藤大貴

①10/23 ②10/30 ③11/6 ④11/13 ⑤11/20 ⑥11/27 ⑦12/4 ⑧12/18

水 | 「BankART義塾 Part3」池田 修、村田 真、他 ※この講座は無料です

①10/24 ②10/31 ③11/7 ④11/14 ⑤11/21 ⑥11/28 ⑦12/5 ⑧12/19

BankART schoolの概要 | 時間=19:30～21:00 会場=BankART Homeにて

料金=1講座12,000円 入学金3,000円(初めての方のみ) 定員=16名

お申し込み方法 | ①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号 ⑤メールアドレスを、メール・FAX・

電話のいずれかにてお知らせください。

お申し込み・お問い合わせ | BankARTスクール事務局

school@bankart1929.com TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813



BankART school通信

BankART school 2018 鈴木理策ゼミ

「なぜ写真か?」2018年5月17日

BankARTスクールがはじまった。ここ当分は、この新しく相生町にオープンした「BankART Home」が、スクール開催の仮の住処だ。午後7時30分、ドアを閉じて、厳かにゼミをスタートする。この小さな拠点は、これまでの河岸にあったような静かな場所とは真逆、飲食店がひしめく繁華街にある。ファーストのガラス面には、帰路につく人、飲み屋に向かう人たちの影がひっきりなしに続く。

今回、プロジェクション画面をリア(道路側)、とフロント(内部空間側)双方向から見えるように配してみた。中で行っているゼミの様子を外を歩く人にも少し感じてもらうためだ。さて、外の人たちの反応は?ゼミ受講生は?

ゼミ終了のり時。ドアは開かれ、夜の人たちが、混ざり始める。



BankART 妻有「桐山の家」

大地の芸術祭2018参加作品。2006年にオープンしたBankART妻有も今年で12年目。古い農家を住めるように、みかんぐみ+神奈川大学曾我部研究室とともに改造。合併浄化槽、ウォシュレット、お風呂、インターネットと設備は整えた。建築のディテールは、BankART ゆかりの作家に直接、制作してもらった。展示物は主にBankARTのコレクション。今回はBankART本体が引越中でもあり、コレクションの大半を持ちこみ展示した。BankARTのメンバーが、フル滞在してお客さんをむかえ入れる。会期中51日は無休で、冷たい麦茶を来館者全員に提供する。ときには、自転車かき氷機で製造したかき氷や農家の方が差し入れて下さった野菜を提供したりする。夕刻からは、知り合いを中心にした泊まり客がある日も多い。



BankARTスクール2018妻有合宿 8月7日～11日

今年の夏は、BankART妻有で合宿ゼミをおこなった。7日早朝に横浜を車で出発、その日は見学のみ。8日は朝、村田真ゼミ、昼は見学会、夜は開発好明ゼミ。9日は朝、松本秋則ゼミ、昼は見学会、夜は村田ゼミ。10日は朝、松本ゼミ、昼は見学会、夜は開発ゼミ。11日は、朝から見学+帰路。ゼミ終了後には、連日オブションのパーベキューや宴会も始まる。参加者は、スタッフを入れて8人程度だし、密度が濃いというか、本当に忙しいスケジュールだった。夜、横浜に戻った参加者は、久々の都会のクーラーに放心したような様子だった。



BankART Home オープン!



BankART Studio NYK閉鎖に伴う引越の第一弾として、関内地区、相生町関内さくら通りに小さなカフェスペースをオープンした。主にはアート系のブックショップですが、夜はパブに早変わり。BankARTスクールや週末にはドリンク片手にアーティストトークが行われる。河岸も潮風も広さここにはないけれど、何か新しい芽を生やすことができればと。皆さん、お気軽に訪ねてください。

BankART Home

11:00～23:00 (日曜定休)

〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル1F

編集後記

□4月のNYKの大引越からはじまって、BankART1929オフィス、BankART Homeの構築、6～7月はR16スタジオ工事やBankART妻有準備運営、合宿、そして8月はBankART Studio NYK代替えの新スペースについてのコンペ案作成と、この間つくることばかり行ってきた数ヶ月だった。季節も冬から春、春から夏、そして既に大分朝夕は寒くなってしまい、もう一周してしまっただけにも感じる。そんなこんなで忙しかついているので、不安定でつらいとかいうことはないが、なんだかあてのないまま放浪をしている感があり、少しは落ち着きたいという気持ちにはなっていることも確かだ。でもと思う。他にやりたいことはないし、ふうって息を吐いて少し休んで、また背筋をのばして、「続けるか」である。

BankART 1929 office

〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル410

TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813

info@bankart1929.com www.bankart1929.com